

奥積雅彦（総務省統計研究研修所教官）

## 統計の日の標語「水と空気と統計と」の共通項

## 1 はじめに

昭和 48 年（1973 年）7 月 3 日閣議了解により、統計の重要性に対する国民一般の関心と理解を深め、統計調査に対する国民のより一層の協力を推進するため、毎年 1 0 月 1 8 日を「統計の日」と定め、「統計の日」を中心として統計知識の普及のための周知広報が行われています。その一環として、総務省において、毎年「統計の日」のポスターを始めとする広報媒体に活用するため標語の募集がなされています。過去の標語（特選）は、【別記】のとおりです。

平成元年度（1989 年度）における統計の日の標語に、「水と空気と統計と 一めだたなくても人と社会を生かしていますー」があります。これは、過去の入選作品のうち、鈍感な筆者の心に最も響いた標語です。

一ロメモ 平成元年度（1989 年度）のポスターについては、その画像（白黒）が「統計通信」（No. 533 1989 年 9 月）に所収されています（統計図書館で閲覧可能）。

## 2 標語「水と空気と統計と 一めだたなくても人と社会を生かしていますー」に対する評価

サブタイトルから水と空気と統計は、目立たなくても社会に役立つものであり、社会にとって欠くことができないものであるということがわかります。ただ、この標語で統計を水や空気に例えることについて違和感があるとの指摘もあります。その指摘は、

「…水と空気と統計について、人間の生活と生存にとって無くてはならないものであること、普段はその存在がほとんど意識されていないことなど、たしかに言い得て妙である。しかしながら、空気や水は人間誰でも吸ったり、飲んだり、使用したりしているけれども、統計は誰でもか使っている訳ではないのである。現代社会は非常に沢山の統計なしには機能しえないことは明らかであるが、一般の人間一人ひとりか日常的に統計を用いているかといえば、事実是否というしかないであろう。現に使っていない人に対して、その必要性や重要性を解ってもらうのは並大抵のことではない。さらに、水や空気は、常識的に言って、自然に存在すると考えられるのであるが、統計は、それどころか、国民の多大な報告負担の上に作成されるのである。実は、この点が大きな違いなのであるし、また、この点を横において統計を水や空気にたとえることは、やはりまずいのではないかとと思われる。…」<sup>1</sup>

…と、統計が国民の多大な報告負担により成り立っているという重要な要素が表現されていないとするもので、正論だと思います。

また、別の人は、

「水と空気は、汚染されているのでは、役に立たないばかりでなく、人体に障害を引き起こしかねません。統計もこれと同様で、正確な統計が作成されなければ、社会・経済のかじ取りをしていくための指針として役に立たないばかりでなく、うっかり信用しようものなら人間社会に大きな被害を引き起こしかねません。」<sup>2</sup>

…と指摘しています。これも正論であり、この標語は、水や空気や統計が汚染されたら社会に悪影響を及ぼすことから、クリーンであることを維持することに努めなければならないという警鐘と解することもできると思います。

## 3 雑感

「水と空気と統計と 一めだたなくても人と社会を生かしていますー」は、水と空気と統計を並列的に例示し、これらの共通項が「めだたなくても社会に役立つもの」とするものであり、水と空気と統計が似ていて非なる面があることを否定するものではないことから、統計が国民皆様の報告負担により成り立っていることは厳然たる事実であり、このことに何ら影響を及ぼすものではないように思います。

ただ、標語で表現しきれない面もあるところ。そこは、統計に係る広報活動全体でカバーすればよいように思います。

## 4 おわりに（標語から学んだこと）

過去における統計の日の標語から学ぶところが大きいことを実感することができ、年々新しい標語が生まれても過去の標語は、今後とも生き続け、標語に定年や賞味期限はないのだと思いました。ちなみに、「水と空気と統計と 一めだたなくても人と社会を生かしていますー」が入選した当時の旧統計法では、政府統計は、行政のための統計であることが色濃く、現行の統計法のように社会の情報基盤としての統計の利活用が前面にでているものではありませんでした。社会の情報基盤としての統計が、この標語のサブタイトルでいう「目立たなくても社会に役立っています」を人々により一層認知されるよう努力しなければならないと改めて認識しました。そのためには、クリーンであることを維持することも重要…です。

<sup>1</sup> 「統計は何に似ているか」（「統計情報」1994 年 7 月号\*所収）

<sup>2</sup> 「「統計の日」に寄せて」（「統計情報」1989 年 10 月号\*所収）

\* 国立国会図書館デジタルコレクション（※国立国会図書館/図書館・個人送信限定）で閲覧可能

## 【別記】「統計の日」標語（特選）一覧

（年度）

- 昭和 50 年<sup>1975 年</sup> 「統計は豊かな暮らしのアドバイザー」
- 51 年 「統計は明るい暮らしを生む力」
- 52 年 「統計は明るい暮らしの道しるべ」
- 53 年 「暮らしに生かそうみんなの統計」
- 54 年、55 年 「統計は未来をひらく道しるべ」
- 56 年 「進路よし」（羅針盤のデザイン）
- 57 年 「地球の朝はデータで始まる」（地球儀のデザイン）
- 58 年 標語なし
- 59 年 「ここにも小さな統計の芽」（子供の写真を使用）
- 60 年 「データは、ぼくらの名監督。」（野球少年）
- 61 年 「明日に、トライ。一先を読み暮らしに役立つ統計ー」
- 62 年 「みんなでつくったーこども達も統計の必要性、重要性を知っています。ー」
- 63 年 「明日がみえるー確かなデータを利用しましょうー」
- 平成元年<sup>1989 年</sup> 「水と空気と統計とーめだたなくても人と社会を生かしていますー」
- 2 年 「統計は世界をつなぐ共通語」
- 3 年 「統計はあなたが主役 みんなの財産」
- 4 年 「みんなでつくり、みんなで生かそうー統計は、未来社会のプランナーー」
- 5 年 「大切なもの、忘れないでー統計は明日のための常備薬ー」
- 6 年 「みんなの協力、みんなの統計」
- 7 年 「たしかな統計 しあわせづくり まちづくり」
- 8 年 「しっかり統計 くっきり未来図」
- 9 年 「統計で 社会をキャッチ 未来をウオッチ」
- 10 年 「統計は 住みよい国へのサポーター」
- 11 年 「役立ってますみんなの協力が！ お返しします確かなデータで！」
- 12 年 「誰のため？みんなのための統計調査」
- 13 年 「統計で見る過去、知る今、描く未来。」
- 14 年 「あなたが支える統計調査 あなたを支える統計データ」
- 15 年 「論より数字 勤より統計」
- 16 年 「統計は、揺れる社会の揺るがぬ指標」
- 17 年 「統計で見える現代、見すえる未来」
- 18 年 「生かします。あなたにもらった 貴重なデータ」
- 19 年 「統計で わかるわが町 わが社会」
- 20 年 「こつこつと 調べてわかる 日本の姿」
- 21 年 「統計で、住みよい国の基礎づくり」
- 22 年 「この国の 確かな選択 支える統計」
- 23 年 「小さな協力 大きな役目 統計はあなたが主役」
- 24 年 「統計で 知る・見る・活かす この社会」
- 25 年 「統計で みんなで見よう 時代の動き」
- 26 年 「統計は 次代を読み解く パートナー」
- 27 年 「統計を 今に活かして 未来につなぐ」
- 28 年 「統計の 確かな情報 大きな安心」
- 29 年 「統計が 教えてくれる 地域力」
- 30 年 「活かせ統計、未来の指針。」
- 令和元年<sup>2019 年</sup> 「数字の先に映し出せ僕らの時代僕らの未来」
- 2 年 「統計調査 1人1人の協力ありがとう」
- 3 年 「「有難う」感謝で集める調査票」
- 4 年 「集まれば 大きな力に 統計調査」
- 5 年 「統計は 未来を支える おくりもの」

【メモ】令和元年10月に開催された「統計データ・グラフィフェア」において、歴代の「統計の日」のポスターが展示されました。次の画像の左から2番目のパネルが平成元年度（1989年度）「統計の日」のポスターです。



【画像】総務省HP

### 【雑感】

標語中、名詞では「統計」のほか、「未来」「社会」「暮らし」「データ」「協力」「調査」「確か」の出現が印象的です。特に、平成元年度（1989年度）の「水と空気と統計とーめだたなくても人と社会を生かしていますー」と令和2年度（2020年度）「統計調査1人1人の協力ありがとう」をあわせて読むことにより、統計の本質的な部分の理解が深まるように思います。そして、それは統計行政に携わる者への戒めでもあると思います。

【余談】平成15年（2003年）の標語「論より数字 勤より統計」は、EBPM（Evidence Based Policy Making）を想起し、新鮮な感じがして、標語に賞味期限がないことを改めて認識しました。将来、ポスターなどのQRコードを読み込むと、個人に合った標語がAIにより自動生成され、勤に依存しがちな筆者には「勤より統計」のような戒めの標語が提供される夢を最近見ました。

令和2年度（2020年度）「統計の日」のポスター



【画像】総務省HP

【参考資料】昭和50年度～令和4年度の標語 [https://www.soumu.go.jp/main\\_content/000857593.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/000857593.pdf)

令和5年の標語 [https://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/02toukatsu01\\_04000451.html](https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/02toukatsu01_04000451.html)

#### 【こぼれ話】

ある人気ドラマのエンディングロールにおいて統計法に基づく政府の重要な統計調査のポスターに「なぞなぞ」の解答を落書きされている部分がクローズアップされるシーンがありました。もちろんそのドラマは、フィクションではありますが、リアル（現実世界）なら、器物損壊に当たるか、ポスターの掲示場所が公共の場所であれば落書き防止条例との関係、政府の重要な統計調査の円滑な実施を妨げる行為との関係について、気になるところ。このことから、筆者の低性能な脳内の気になるリスト（筆者があの世界にいくまでの人生の課題）に加わりました。

また、悪意のある無断の落書きは、選挙のポスターや映画の宣伝用のポスターだったら問題視されるが、政府の統計調査のポスターだと問題視されないとしたら、広い意味で政府統計が軽視されているからではないか、軽視されないためには（政府の統計調査のポスターへの落書きを抑止するためには）何をすべきかなど、筆者の脳内の気になるリストが増殖して、結局、結論がでないまま、あの世界で見守ることぐらいしかできない予感がします。ただ、統計行政に携わる者は、政府統計の信用を失墜させるような行為を厳に慎むこと、政府統計の有用性（社会的利益）を周知することが解決につながるのかもしれない（あくまでも筆者の個人的見解です）。

#### 【あとがき】

統計の日の標語「水と空気と統計と 一めだたなくても人と社会を生かしています」を改めてみると、…アナロジーやポジティブな表現に加えて、リズム感もある表現であることから、レトリックの手法が見事に取り入れられているように思います。政府の統計調査に理解と協力を求める広報においても、レトリックな手法が有効であるかもしれないと感じました、